

いしづち

愛媛労災病院広報紙第17巻第3号

（通巻第85号）

2018年7月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念

当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、以下のように宣言します。

【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務

ふれあい看護週間にふれあい寄席を開催しました！

詳細記事は、4頁に掲載しています。



寄席の様子(日本笑い学会四国支部 新居浜精神衛生研究所付属豊岡台病院長 枝廣 篤昌先生)

就労と糖尿病治療両立支援について	2
外来紹介	3
子宮頸癌予防のために	3

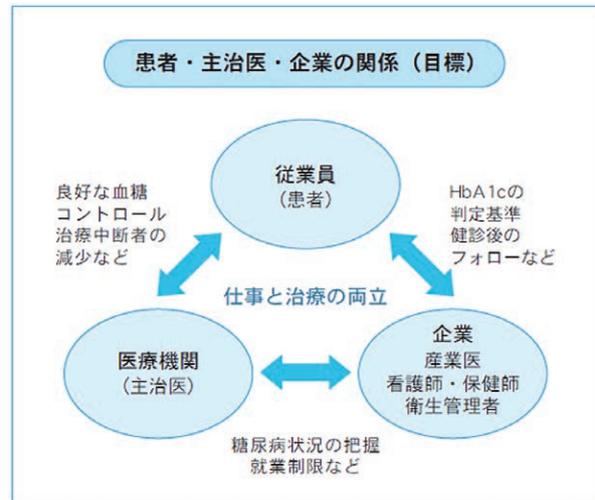
愛媛労災病院に赴任して	4
ふれあい看護週間行事	4

就労と糖尿病治療両立支援について

第二内科部長 山田 耕司

当科は代謝内分泌内科を専門として診療をおこなっていますが、その中でも糖尿病患者さんが大部分を占めています。厚生労働省の2016年国民健康・栄養調査によれば、糖尿病の有病率は増加しており、就労者の中心である40歳代では、糖尿病を強く疑われる人のうち治療を継続的に受けているのは、男性で51.5%、女性71.7%で、40歳代男性では治療を受けている割合が他の年代よりも低いという調査結果がでています。

糖尿病は初期段階では自覚症状に乏しく、治療を行わなくても、働き続けることが困難となるような問題は直ちには生じないかもしれませんが。しかし治療せず放置しておく、将来的に深刻な合併症を引き起こす病気です。糖尿病が進行すると、糖尿病網膜症による視力障害や失明、糖尿病腎症による血液透析導入、神経障害や足壊疽などによる下肢切断などが引き起こされます。また心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化性疾患発症の危険が高まります。このような合併症の発症により、実は就業の継続や復職が難しくなっているという現状があります。糖尿病性慢性合併症は、良好な血糖管理を維持することができれば予防可能です。そのためには患者さん本人が主治医の指示などに基づいて、定期通院すること、きちんと服薬やインスリン注射を継続すること、適切な生活習慣を守ること、治療や疾病の増悪防止に主体的に取り組むことが重要ですが、周囲のサポートが得られればこれらをより円滑に進められるようになります。厚生労働省の調査によれば、糖尿病の治療を中断する理由として最も多いのは「仕事が忙しいから」という結果がでています。適切な介入が治療中断の減少につながると考えられ、そのためには職場の理解が不可欠です。このような背景があり、当院では糖尿病治療中の患者さんが活躍できる環境を整備するため「就労と糖尿病治療両立支援」を平成27年度から行っております。医療機関、糖尿病患者、職場の三者間で連携することにより治療中断の防止を含め、患者さ



んが安心して、仕事をしながら治療に専念できる環境作りに取り組んでいます。そのための連携ツールとして『就労と糖尿病治療両立支援手帳』を活用しています。具体的には主治医が現在の治療状況、就労に関わる注意点や就業上の制限の必要性などを手帳に記入し、次に職場の担当者に患者本人が提出し、その内容に基づいて職場で対応を検討してもらうといった流れとなっています。

平成29年度は20名の患者さんに支援を実施しました。今後も「就労と糖尿病治療の両立」が円滑に進むよう取り組んでいきたいと思ひます。



外来紹介

外来看護師長補佐 **神野結花**

最近の外来の動きを紹介致します。

<消化器病センター>平成29年9月に開設されました。今までの内視鏡室から移転し、明るく広々とした待合スペースが確保されて、リカバリースペースが造られました。今まで以上に安全性・快適性を向上させ、緊急の検査・治療にも十分対応できるセンターとなっています。

<看護相談室>平成29年11月に開設され、認定看護師等の専門の看護師が各専門分野での相談や、専門分野以外でも在宅療養上で困ったことがあれば、何でも相談をお受けしています。是非お気軽にご相談ください。

<神経内科(物忘れ外来)>平成30年4月から診療を毎週木曜日（午後1時30分から）に行っています。

<入退院支援>平成30年5月から入院時の説明や入院前から患者様の生活状況等を把握して、入院療養へと繋がりをもって治療が受けられるように支援しています。

当院に初めて来院された患者様が不安なくスムーズに診察を受けることができるように、また、治療継続中の患者様の在宅療養への多様なニーズにお応えし、サポートできるように取り組んでいます。



消化器病センター



看護相談室



入退院支援

子宮頸癌予防のために

臨床検査技師 **井上由紀江**

子宮頸癌は、初期症状がほとんどないため、発見が遅れると子宮だけでなく、命までも落とすことになりかねません。

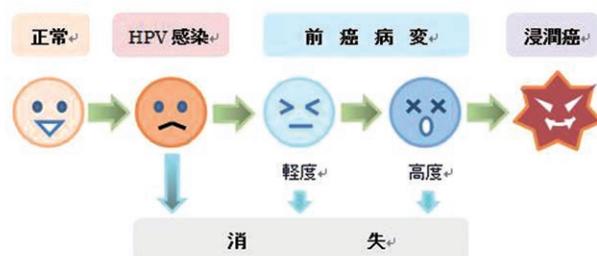
子宮頸癌には、ヒトパピローマウイルス（HPV）への感染が関与していることが知られています。HPVには、100種類以上の異なる型があり、約15種類の高リスク型と呼ばれるHPVが、子宮頸部異常あるいは癌を引き起こす可能性があります。

HPV感染の多くは自然に排除されますが、感染した一部の細胞が数年から数十年かけて、癌に進行していきます。細胞診検査で、前癌病変の段階

で見つけることが可能です。

定期的な細胞診検査を受けることによって、癌になる前の段階で発見することができます。

子宮頸癌の早期発見と予防のために、20歳をすぎたら細胞診検査を受けましょう。



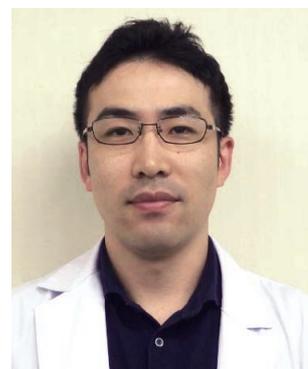
愛媛労災病院に赴任して

整形外科副部長 川上 泰広

はじめまして、平成30年4月より山口労災病院より赴任してきました整形外科の川上です。

平成20年に東邦大学医学部を卒業後に、故郷の山口大学で研修し様々な関連病院を経て現在にいらします。専門分野は脊椎脊髄外科で、現在は脊椎脊髄専門医を取得し今年は指導医を申請する予定です。愛媛労災病院の脊椎外科は砂金先生、國司先生と偉大なる先輩方が担っていた分野であり、私も

微力ながら一人でも多くの方を治療できるように頑張りたいと思います。



ふれあい看護週間行事

南4階病棟棟長 妻鳥 里美

5月12日は、近代看護の母と呼ばれるフロレンス・ナイチンゲールが生まれた日です。彼女の功績を称え、ICN（国際看護師協会）は、この日を「看護の日」と定めています。当院でも、毎年この看護週間に行事を行っています。各部署の紹介や認定看護師の活動をはじめ、コメディカルの活動を紹介するパネル展示やイベントを開催しました。今年初めて企画した「ふれあい寄席」は、芸乃虎や志さんによる落語と笑いヨガで、会場が大きな笑いの渦に包まれ、癒しの時間となりました。また、小学生以下

の子どもさんを対象とした白衣体験も初めて行い好評を得ました。毎年実施している一般参加者の病棟での看護師体験や、看護相談（糖尿病・感染防止・皮膚トラブル・口のケア・妊産婦相談）それらに加え、災害看護として災害の備えや応急処置の実演も行いました。これらの行事を通して、看護について地域の方々と共に考える機会となりました。

7月20日には、高校生を対象とした「ふれあい医療・看護体験」を行う予定です。



広報誌編集メンバー 委員長：福井脳神経外科部長 委員：山田第2内科部長、今田看護副部長、荒井看護師長、横井看護師長補佐、加地看護師、西山薬剤師、西原作業療法士、正岡診療放射線技師、井上臨床検査技師、住本総務課長、岸本総務課員、中山診療情報管理士、椿総務課員